

Press Release

2020年2月28日



日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

EL20-06

本プレスリリースは、米国イーライリリー・アンド・カンパニーが1月30日(米国現地時間)に発表したプレスリリースの一部を抜粋し日本語に翻訳したものです。内容および解釈については英文オリジナルが優先されます。<http://www.lilly.com>をご参照ください。

米国イーライリリー・アンド・カンパニー、好調な2019年第4四半期・通年の業績を報告 Dermira社の買収手続完了を見込んで2020年業績予想を修正

- ・ 2019年第4四半期の売上は10%の売上数量拡大により8%増。2014年以降に上市した主要成長製品(トルリシティ、トルツ、ジャディアンス、ベージニオ、オルミエント、Emgality、Basaglar、サイラムザ)が売上伸長に14パーセントポイント貢献し、総売上上の約46%に拡大。2019年通年の売上は、4%増の223億1,900万ドル。
- ・ 2019年第4四半期の事業費は、開発後期のパイプラインと最近上市した製品への投資増を反映して6%増。
- ・ 2019年第4四半期の1株当たり利益(EPS)は、報告値ベースで1.64ドル、非GAAPベースで1.73ドルにそれぞれ増加。2019年通年のEPSは報告値ベースで8.89ドル、非GAAPベースで6.04ドルにそれぞれ増加。
- ・ 最近の特筆すべき出来事は、手続完了を待つDermira社の買収、および米国のインスリン価格に関する追加の対応策。
- ・ 2020年EPS予想の範囲について、手続完了を待つDermira社の買収を反映して、報告値で6.18ドルから6.28ドルに修正、非GAAP値では6.70ドルから6.80ドルの範囲であることを再確認。

イーライリリー・アンド・カンパニー(NYSE: LLY、本社:米インディアナ州インディアナポリス、以下リリー)は、米国時間1月30日、2019年第4四半期および通年の業績を発表しました。

単位百万ドル (1株当たり数値を除く)	第4四半期			通年		
	2019	2018	% 成長率	2019	2018	% 成長率
	売上	\$ 6,114.0	\$ 5,637.6	8%	\$ 22,319.5	\$ 21,493.3
純利益 - 報告値	1,495.7	1,125.1	33%	8,318.4	3,232.0	NM
1株当たり利益 - 報告値	1.64	1.10	49%	8.89	3.13	NM
純利益 - 非 GAAP 値	1,583.3	1,258.3	26%	5,568.2	5,272.1	6%
1株当たり利益 - 非 GAAP 値	1.73	1.32	31%	6.04	5.44	11%
NM - 比較不能						

2019年度と2018年度の業績は報告値および非GAAP値の両方で示されています。本プレスリリースに含まれる数値は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。報告値は米国一般会計原則(GAAP)に則って作成され、当該期間に計上したすべての売上および経費を含み、全会計期間において動物薬事業(エランコアニマルヘルス)を非継続事業と見なしています。非GAAP値業績は、後述の調整表にある特定項目を除外するとともに、エランコの分離独立が当該会計期間の初めに完了したものと見なしています(発行済み普通株式数の減少による恩恵を含む)。リリーの2020年度の業績予想も報告値と非GAAP値の両方で説明されています。この非GAAP値は、会社の業績の潜在的傾向への追加的な洞察を提供するためのものです。

リリーの会長兼最高経営責任者(CEO)のデイビッド・A・リックス(David A. Ricks)は次のように述べています。「リリーはまさに輝かしい成長期に差し掛かったと言えるでしょう。近年上市した新製品の順調な売上増とビジネス全般にわたる徹底した経費管理により、私たちは研究開発パイプラインへの投資を増やしつつ2019年第4四半期および通年で目覚ましい利益の伸長を達成しました。リリーの研究開発担当者は、糖尿病、がん、自己免疫疾患、神経変性疾患領域の患者さんに新たな治療選択肢を提供するために、革新的医薬品のポートフォリオをさらに拡大すべく励んでおり、私たちは2020年もこの進展をさらに継続してまいります。」

過去 3 ヶ月の主要な出来事

薬事関連

- ・ 米国食品医薬品局 (FDA) は、RET 融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌 (NSCLC)、RET 遺伝子変異陽性の甲状腺髄様癌、および RET 融合遺伝子陽性の甲状腺癌の患者さんの治療薬として selpercatinib の新薬承認申請を、優先審査の対象に指定しました。
- ・ FDA は、食事療法と運動療法とともに、成人 2 型糖尿病患者さんの血糖値を低下させる Trijardy™ XR (エンパグリフロジン／リナグリプチン／徐放性塩酸メトホルミン 3 剤配合錠) を承認しました。Trijardy XR は、ジャディアンス® (エンパグリフロジン)、トラゼンタ® (リナグリプチン)、徐放性塩酸メトホルミンという 3 剤の 2 型糖尿病治療薬を 1 つの錠剤に配合した配合剤です。
- ・ 欧州委員会は、サイラムザ® の新しい適応症とそれに関連する添付文書改訂を承認しました。新しい添付文書には、サイラムザの適応症として、治療歴のない EGFR (上皮成長因子受容体) 遺伝子変異を有する進行 NSCLC 成人患者さんに対するエルロチニブとの併用療法が含まれます。
- ・ 欧州委員会は、4 歳以上の糖尿病患者さんの重症低血糖治療薬として、Baqsimi™ (グルカゴン) 点鼻粉末剤 3 mg を承認しました。

臨床開発

- ・ リリーとインサイト・コーポレーションは、バリシチニブが 2 つの第Ⅲ相臨床試験 (BREEZE-AD4 および BREEZE-AD5 試験) で主要評価項目を達成したと発表しました。BREEZE-AD4 試験は、シクロスポリンが奏効しなかったか、不耐性又は禁忌の中等症から重症アトピー性皮膚炎の成人患者さんを対象に、外用ステロイド薬とバリシチニブの併用療法の安全性と有効性を評価しました。BREEZE-AD5 試験は、中等症から重症アトピー性皮膚炎の成人患者さんを対象に、バリシチニブの安全性と有効性を評価しました。
- ・ リリーとイノセントバイオロジクス・インクは、センシティブな EGFR 遺伝子変異あるいは ALK 遺伝子の配列変化を伴わない進行または再発非扁平上皮 NSCLC の初回治療として、Tyvyt® とアリムタ®、プラチナ製剤の 3 剤併用療法を評価した中国での第Ⅲ相臨床試験の中間解析の結果が、主要評価

項目である無増悪生存期間の延長を示したことを発表しました。

- ・ リリーとベーリンガーインゲルハイムは、駆出率が減少および保持された慢性心不全の成人患者さんの日常生活機能を評価項目としたジャディアンスの2つの第Ⅲ相臨床試験結果を発表しました。いずれの試験においても、6分間の歩行テストを主要評価項目としてジャディアンスとプラセボを比較した結果、ベースラインから12週時点までの運動能力について有意差は認められませんでした。両試験における安全性プロファイルはこれまでに得られたジャディアンスの安全性プロファイルと同様で、新たな安全性のリスクは特定されませんでした。

事業開発・その他

- ・ リリーは、1株当たり18.75ドル、すなわち約11億ドルの全額現金払いの取引で、Dermira, Inc. (以下Dermira社)を買収する正式契約を発表しました。Dermira社は、慢性皮膚疾患の新規治療薬の開発に注力するバイオ医薬品企業です。正式承認を待つ今回の買収により、リリーは、中等症から重症アトピー性皮膚炎の12歳以上の患者さんを対象に第Ⅲ相臨床試験プログラムが進行中のlebrikizumab (IL-13に高親和性で結合するよう設計された開発中の新規モノクローナル抗体)を加え、開発パイプラインを拡大します。Dermira社の買収はまた、原発性局所多汗症(コントロールできない過剰な腋窩の発汗)に対する外用治療薬としてFDAに承認された医療用シートQBREXZA[®]※1を加えることで、リリーの既存の皮膚科領域製品ポートフォリオを拡大します。
- ・ リリーは、Humalog[®] Mix75/25[™] KwikPen[®]およびHumalog Junior KwikPenの低価格バージョンを導入することで、当社のインスリンを使用しておられる米国の患者さんへの一連のソリューションに新たに2つのコスト節減の選択肢を加える計画を発表しました。いずれのインスリン製剤も、ブランド品と比較して50%低い価格で、4月中旬までに販売開始されます。リリー初の低価格インスリン製剤であるInsulin Lispro注射剤は、ヒューマログより50%低い価格で2019年5月に発売されました。2019年12月には、8万人近い患者さんにInsulin Lispro注射剤が処方され、米国でヒューマログを使用しておられる患者さんの約10%が低価格製剤を選択したことになります。Insulin Lispro注射剤は、現在米国の全ての主要卸により流通されており、どの薬局でも発注することができます。

-
- ・ 米国インディアナ州南部地区連邦地方裁判所は、競合他社によって販売意向が表明されたペメトレキセドの代替塩製剤が、特許期間満了前においては、アリムタのビタミン療法特許の特許侵害に該当する旨認定し、リリーに有利な判決を下しました。今回の判決は、リリーとアポテックス・インクとの訴訟におけるもので、アポテックスは控訴しました。
 - ・ リリーは、糖尿病治療を前進させるために現在開発しているリリーの個別化糖尿病管理システムに DexCom, Inc. (以下 DexCom 社) の製品を統合するグローバル規模の製品化契約を発表しました。今回の非排他的契約条項に基づき、リリーは糖尿病管理を改善するためにペンとポンプのいずれのプラットフォームにも対応する Dexcom 社の持続血糖測定器 (CGM) を活用します。
 - ・ リリーとベーリンガーインゲルハイムは、2 型糖尿病、心不全、慢性腎臓病に対するジャディアンスの継続的な開発とプロモーション活動に両社の経営資源を集中させるために、既存のアライアンスを再編しました。トラゼンタと Basaglar[®] は引き続きアライアンスの一部とし、それぞれの開発会社が開発と製品プロモーションに対する主たる責任を担います。今後は、ベーリンガーインゲルハイムがトラゼンタの戦略を、リリーが Basaglar の戦略をリードします。

※1: 日本においては 2016 年にマルホに開発および販売の独占的ライセンス供与の契約を締結

第 4 四半期の業績 (報告値)

2019 年第 4 四半期の世界全体での売上は 61 億 1,400 万ドルで、2018 年第 4 四半期と比べて 8%増でした。売上増は販売数量の 10%増加によるものですが、実勢価格の低下で 1%相殺されました。

米国での売上は前年同期比 7%増の 35 億 1,900 万ドルでした。売上数量の 8%増加が実勢価格の低下で一部相殺されました。米国でのトルリンティ[®]、トルツ[®]、ページニオ[®]、ジャディアンス、Emgality[®]、Basaglar を含む主要成長製品の売上数量増加は、特許の独占権喪失によるシアリス[®]の販売数量減少、フォルテオ[®]の売上数量減少、および olatumab の製造販売終了による影響で一部相殺されました。

米国外での売上は前年同期比 10%増の 25 億 9,500 万ドルでした。この増加は販売数量の 12%増加によるも

ので、主にトルリシティ、オルミエント[®]、トルツ、ページニオ、ジャディアンスの主要成長製品が寄与しましたが、特許の独占権喪失によるストラテラの販売数量減少と olaratumab の製造販売終了による影響で一部相殺されました。さらに、米国外の売上は、Vittrakvi[®]の独占的開発および販売ライセンス契約から生じたバイエルコンシューマーカーケア AG のマイルストーン支払による恩恵も受けました。販売数量増加による売上増は、外国為替変動の不利な影響と実勢価格の低下により一部相殺されました。

2019 年第 4 四半期における売上総利益は、前年同期比 7%増の 48 億 3,100 万ドルでした。売上に対する売上総利益の割合は、前年同期から 1.0 パーセントポイント低下して 79.0%でした。売上総利益比率の低下は、主に製品構成の不利な変化、海外の棚卸資産の販売に関わる外国為替変動の不利な影響、無形固定資産償却費用の上昇、および売上に対する実勢価格の減少がもたらした影響によるものです。

2019 年第 4 四半期の総事業費(研究開発、マーケティング、販売および一般管理費の合計)は、前年同期比 6%増の 32 億 8,000 万ドルでした。研究開発費は、後期段階の新薬の開発費用上昇により 14%増の 15 億 8,100 万ドル、売上に対する比率は 25.9%となりました。マーケティング、販売および一般管理費は、ライフサイクル後期の製品への支出の減少と現行のコスト抑制策が近年上市した製品への費用増により相殺されたため、16 億 9,800 万ドルとなり比較的フラットな状態を維持しました。

2019 年第 4 四半期は取得済仕掛研究開発費の計上はありませんでした。2018 年第 4 四半期は、Dicerna Pharmaceuticals、SIGA Technologies、中外製薬株式会社、NextCure、Hydra Biosciences との事業開発取引に関連して 3 億 2,940 万ドルの取得済仕掛研究開発費を計上しました。

2019 年第 4 四半期に、リリーは 1 億 5,170 万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上しました。この費用は主に英国の研究開発施設の閉鎖と売却の決定、およびコスト構造削減のためのアクションにより生じた退職費用に関連するものでした。2018 年第 4 四半期に、リリーは主にコスト構造削減のための施策で生じた退職費用に関連して、1 億 9,270 万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費

用を計上しました。

2019年第4四半期の営業利益は14億ドルで、これに対して2018年第4四半期は9億20万ドルでした。営業利益の増加は、主に取得済仕掛研究開発費の減少と売上総利益の上昇によるもので、研究開発費の上昇により一部相殺されました。

2019年第4四半期のその他の収入は2億6,290万ドルで、これに対して2018年第4四半期は3,140万ドルでした。その他の収入の増加は、主に当社の中国における抗生物質ビジネスの売却による収入と、投資有価証券売却益の増加によるもので、負債の買戻しに関連した費用により一部相殺されました。

2019年第4四半期の実効税率は10.1%で、子会社株式の処分による資本損失に対する税制優遇を含む個別の優遇措置を含みます。2018年第4四半期に、リリーは9億3,160万ドルの税引き前利益に対して1億8,980万ドルの所得税軽減を計上しました。2018年の所得税軽減は、主として米国の税制改正による3億4,460万ドルの調整によるものです。

2019年第4四半期の純利益と1株当たり利益は、それぞれ14億9,600万ドルと1.64ドルで、前年同期はそれぞれ11億2,500万ドルと1.10ドルでした。2019年第4四半期の純利益の増加は、主に営業利益の増加とその他の収入の増加によるもので、所得税の上昇により一部相殺されました。2019年第4四半期の1株当たり利益の上昇は、純利益の増加に加えて、エランコ株式の交換プログラムと株式の買戻しによる加重平均発行済株式数の減少により大いに恩恵を受けました。

第4四半期の業績(非GAAP値)

非GAAP値では、2019年第4四半期の売上総利益は前年同期比7%増の48億8,500万ドルでした。売上に対する売上総利益の割合は、0.7パーセントポイント低下して79.9%でした。売上総利益率の低下は、主に製品構成の不利な変化、海外の棚卸資産の販売に関わる外国為替変動の不利な影響、売上に対する実勢価

格の低下によるものです。

2019年第4四半期の非GAAP値での営業利益は、前年同期比で1億4,560万ドル、率にして10%増の16億500万ドルでした。売上総利益の上昇が寄与しましたが、研究開発費の増加により一部相殺されました。

2019年第4四半期の非GAAP値でのその他の収入は2億560万ドルでした。これに対して前年同期は3,140万ドルでした。その他の収入の増加は、主に投資有価証券売却益の増加と正味外国為替差益の増加によるもので、支払利子の上昇により一部相殺されました。

2019年第4四半期の非GAAP値での実効税率は12.6%で、これに対して前年同期は15.6%でした。当期における実効税率の低下は主に個別の税優遇の増加によるものです。

非GAAP値では、2019年第4四半期の純利益は26%増の15億8,300万ドルで、1株当たり利益は31%増の1.73ドルでした。一方、前年同期はそれぞれ12億5,800万ドルと1.32ドルでした。純利益の増加は主にその他の収入の増加と営業利益の増加によるものです。1株当たり利益の増加は主に純利益の増加と、それより影響は小さいものの、株式買戻しによる加重平均発行済株式数の減少によるものです。非GAAP値での加重平均発行済株式数は、2019年第4四半期および2018年第4四半期ともに、エランコ株式との交換プログラムに伴う回収により約6,500万株減少しています。

非GAAP値の詳細は、以下の調整表および本プレスリリース中の後述のGAAP報告値と一部の非GAAP調整後値の対比表をご覧ください。

	第 4 四半期		
	<u>2019</u>	<u>2018</u>	<u>% 成長率</u>
1 株当たり利益(報告値)	\$ 1.64	\$ 1.10	49%
中国の抗生物質ビジネス売却による利益(損失)	(.26)	—	
負債買戻しに関連する費用	.22	—	
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用	.14	.18	
無形固定資産の償却	.05	.03	
所得税 ^(a)	(.05)	(.33)	
取得済仕掛研究開発費	—	.27	
非 GAAP 値への発行済株式数減少の影響 ^(b)	—	.07	
1 株当たり利益(非 GAAP 値)	\$ 1.73	\$ 1.32	31%
四捨五入のため合計値は一致しません。			
(a) 2019 年 Q4 の数値は子会社株式の処分に関わる資本損失による税優遇に関連。2018 年 Q4 の数値は米国税制改正法による 2017 年度通行税に関する調整と、エランコの分離独立に関連する税費用。			
(b) 非 GAAP 値での 1 株当たり利益はエランコの分離独立が上記全ての会計期間の初めに完了したとみなしており、そのためエランコ株式の交換プログラムで回収された約 6,500 万株のリリー普通株式を除外して計算。			

2019 年通年の業績(報告値)

2019 年通年の世界全体での売上は、前年比 4%増の 223 億 1,900 万ドルでした。売上数量拡大による 8%増が売上増を牽引しましたが、実勢価格の 3%低下と外国為替変動の不利な影響による 1%減で一部相殺されました。

米国での売上は 3%増の 127 億 2,300 万ドルで、トルリシティ、トルツ、ページニオ、ジャディアンス、Emgality、Basaglar 等の主要成長製品の売上数量拡大が牽引しました。売上増は、特許の独占権を喪失した製品（主にシアリス）の売上数量減少、olaratumab の製造販売終了による影響、およびフォルテオの売上数量減少により一部相殺されました。シアリスを除くと、米国での売上数量は 15%伸長しました。米国での売上増はいくつかの製品（主にトルリシティ）の実勢価格の低下によるマイナスの影響を受けました。

米国外での売上は、トルリシティ、オルミエント、トルツ、ジャディアンス、ページニオ等の主要成長製品の売上数量拡大により前年比 5%増の 95 億 9,700 万ドルでした。売上増は外国為替変動の不利な影響と、影響はより小さいものの実勢価格の低下により一部相殺されました。

2019 年の売上総利益は 5%増の 175 億 9,800 万ドルでした。売上に対する売上総利益の割合は、2018 年と比較して 0.6 パーセントポイント増の 78.8%でした。売上総利益比率の上昇は、主に海外の棚卸資産の販売に関わる外国為替変動の有利な影響と無形固定資産の償却費用の減少によるものですが、製品構成の不利な変化、売上に対する実勢価格の低下による影響、および olaratumab の製造販売終了に伴う費用により一部相殺されました。

2019 年の総事業費（研究開発、マーケティング、販売および一般管理費の合計）は 7%増の 118 億 900 万ドルでした。研究開発費は、後期段階の新薬の開発費用上昇により 11%増の 55 億 9,500 万ドルで、売上に対する比率は 25.1%でした。マーケティング、販売および一般管理費は 4%増の 62 億 1,400 万ドルで、主に近年上市した製品へのマーケティング費用の増加によるものですが、ライフサイクル後期の製品への支出減少により一部相殺されました。

2019 年に、リリーは AC Immune、Centrexion Therapeutics、ImmuNext、Avidity Biosciences との事業開発取引に関連して、2 億 3,960 万ドルの取得済仕掛研究開発費を計上しました。2018 年は、主に ARMO BioSciences の買収、および Dicerna Pharmaceuticals との事業開発取引に関連して、19 億 8,400 万ドルの取得済仕掛研究開発費を計上しました。

2019年に、リリーは5億7,560万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上しました。これらの費用は主に、Loxo オンコロジー（以下 Loxo 社）の買収手続完了の一環として Loxo 社の社員の株式プログラム受領権を前倒したこと、影響はより小さいものの、英国にある研究開発施設の閉鎖と売却の決定に伴う費用によるものです。2018年は、主に Posilac[®] (rbST) ブランドの売却とそれに関連するジョージア州オーガスタにある製造拠点の売却に関連する資産価値減損として、2億6,690万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上しました。また、これらの費用には当社のコスト構造改善に関連する経費も含まれています。

2019年の営業利益は、2018年と比較して41%増の49億7,400万ドルでした。これは主に取得済仕掛研究開発費の減少と、影響はより小さいものの売上総利益の増加によるものですが、事業費の増加により一部相殺されました。

2019年のその他の収入は2億9,160万ドルで、これに対して2018年は1億4,560万ドルでした。その他の収入の増加は、主に投資有価証券正味売却益の増加と、当社の中国における抗生物質ビジネスの売却に伴う利益によるものですが、負債買戻しに関連する費用と正味支払利子の上昇により一部相殺されました。

2019年通年の実効税率は11.9%で、これに対して2018年通年の実効税率は14.4%でした。2018年の実効税率がより高かったのは、主に控除不能の取得済仕掛研究開発費によるものです。

2019年通年の純利益と1株当たり利益はそれぞれ83億1,800万ドルと8.89ドルで、これらに対して2018年はそれぞれ32億3,200万ドルと3.13ドルでした。2019年の純利益と1株当たり利益の増加は、主にエランコの分離独立に関連して計上した利益と営業利益の増加によるものです。2019年の1株当たり利益の増加は、純利益の増加に加えて、エランコ株式の交換プログラムと株式の買戻しによる加重平均発行済株式数の減少により大いに恩恵を受けました。

2019 年通年の業績(非 GAAP 値)

非 GAAP 値では、2019 年通年の売上総利益は 2018 年通年と比較して 4%増の 178 億 8,800 万ドルでした。2019 年通年の売上に対する売上総利益の比率は 80.1%で、これに対して 2018 年通年は 79.8%でした。

非 GAAP での営業利益は、売上総利益の増加が一部相殺したものの、事業費の増加により前年から 5,480 万ドル(1%)減少して 60 億 7,900 万ドルでした。

非 GAAP 値での 2019 年通年のその他の収入は 2 億 3,430 万ドルで、これに対して 2018 年通年は 1 億 1,980 万ドルでした。その他の収入の増加は主に投資有価証券正味売却益の増加によりますが、正味支払利子の増加により一部相殺されました。

非 GAAP 値での 2019 年通年の実効税率は 11.8%で、これに対して 2018 年通年は 15.7%でした。実効税率の低下は、主として世界全体での所得税監査の一部が決着したことによる個別の税優遇措置の増加によるものです。

非 GAAP 値では、純利益は 6%増の 55 億 6,800 万ドル、1 株当たり利益は 11%増の 6.04 ドルでした。純利益の増加は主に税費用の低下とその他の収入の増加によるもので、営業利益の減少により一部相殺されました。1 株当たり利益の増加は、純利益の増加と、株式買戻しによる加重平均発行済株式数の減少による恩恵のためです。非 GAAP 値での 2019 年通年および 2018 年通年の加重平均発行済株式数は、エランコ株式との交換プログラムに伴う回収により約 6,500 万株減少しています。

非 GAAP 値の詳細は、以下の調整表および本プレスリリース中の後述の「GAAP 報告値と一部の非 GAAP 調整後値の対比表」をご覧ください。

	<u>通年</u>		<u>% 成長率</u>
	<u>2019</u>	<u>2018</u>	
1 株当たり利益(報告値)	\$ 8.89	\$ 3.13	NM
非継続事業	(3.93)	(.08)	
継続事業による 1 株当たり利益(報告値)	4.96	3.05	63%
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用	.58	.24	
中国の抗生物質ビジネス売却による利益(損失)	(.26)	—	
負債買戻しに関連する費用	.22	—	
取得済仕掛研究開発費	.21	1.96	
無形固定資産の償却	.18	.28	
olaratumab 関連費用	.14	—	
非 GAAP 値への発行済株式数減少の影響 ^(a)	.07	.20	
所得税 ^(b)	(.05)	(.27)	
その他(純額)	—	(.02)	
1 株当たり利益(非 GAAP 値)	\$ 6.04	\$ 5.44	11%
四捨五入のため合計値は一致しません。NM - 比較不能			
(a) 非 GAAP 値での 1 株当たり利益はエランコの分離独立が 上記全ての会計期間の初めに完了したとみなしており、そのためエランコ株式の交換プログラムで回収された約 6,500 万株のリリー普通株式を除外して計算しています。			
(b) 2019 年の数値は、子会社株式の処分による資本損失に関する税優遇に関連。2018 年の数値は、米国税制改正法による 2017 年度通行税に関する調整と、エランコの分離独立に関連する税費用。			

売上高ハイライト

主要製品	第4四半期			通年		
	2019	2018	% Change	2019	2018	% Change
トルリシテイ®	\$ 1,208.1	\$ 924.7	31%	\$ 4,127.8	\$ 3,199.1	29%
ヒューマログ® ^(a)	763.4	770.4	(1)%	2,820.7	2,996.5	(6)%
アリムタ®	530.7	556.9	(5)%	2,115.8	2,132.9	(1)%
フォルテオ®	360.2	437.1	(18)%	1,404.7	1,575.6	(11)%
トルツ®	420.1	307.0	37%	1,366.4	937.5	46%
ヒューマリン®	348.0	337.4	3%	1,290.1	1,331.4	(3)%
Basaglar®	307.2	232.2	32%	1,112.6	801.2	39%
ジャディアンス® ^(b)	268.0	193.2	39%	944.2	658.3	43%
サイラムザ®	245.1	220.6	11%	925.1	821.4	13%
シアリス®	197.8	350.7	(44)%	890.5	1,851.8	(52)%
ベージニオ®	179.1	83.1	NM	579.7	255.0	NM
オルミエント®	127.8	70.1	82%	426.9	202.5	NM
Emgality®	66.3	4.9	NM	162.5	4.9	NM
総売上	6,114.0	5,637.6	8%	22,319.5	21,493.3	4%

(a) ヒューマログには Insulin Lispro が含まれます。
(b) ジャディアンスには Glyxambi®と Synjardy®が含まれます。
NM - 比較不能。四捨五入のため合計値は一致しません。

〈このプレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております〉